



# 朝倉彫塑館と彫刻家戸谷成雄

fam.s Interview

— 《連山》を知っていますか —

今春、当館で開催された「戸谷成雄 彫刻」展（2023年2月25日—5月14日）の特別対談（2023年3月12日）の折、朝倉彫塑館の戸張泰子学芸員に偶然お会いし、戸谷成雄さんが《連山》という作品で第1回朝倉文夫賞を受賞されたことを知った。さらに詳しくお聞きしたいと思い、戸張学芸員を訪ねた。朝倉文夫の制作の場であったアトリエの大きなテーブルに本や資料を広げて、時にはこちらからの問いかけにも応じていただきながら、お話を耳を傾けた。



## 朝倉文夫賞は5回までと決めて設定されました

1986年9月に朝倉彫塑館が台東区へ寄贈された際、朝倉の業績を顕彰し、現代日本彫刻界の振興とともに区民文化の向上に寄与することを目的として、朝倉文夫賞を創設しました。1988年から5年に限って設定されました。第1回の選考委員は朝倉響子、佐藤忠良、針生一郎、堀内正和、本間正義の5名です。

## 《連山》は88名の秀作から選ばれました

まず、選考の対象として、過去2年間（1986年8月1日—1988年7月31日）に国内で開催された美術展、コンクール展、個展などで発表された多数の彫刻作品から選考を行い、88名の秀作をリストアップしました。次に、第一次選考として選考委員5名の話し合いにより27名を絞り、さらに第二次選考で14名の作品を賞候補として選びました。ここで各委員がそれぞれの見解を述べて審議を行い、最終的には3回にわたる投票の結果、戸谷成雄さんの\*《連山》が第1回朝倉文夫賞に決定したのです。現在は台東地区センター2階に設置されています。受賞した《連山》は1988年第43回ヴェネツィア・ビエンナーレにも出品されました。



再現されたアトリエ

## 今年は朝倉文夫生誕140年です

特別展「アトリエの朝倉文夫」（2023年1月21日—2023年5月28日）では多数の作品を展示して、当時のアトリエを再現しました。大作制作時に使う電動昇降台を稼働するイベントも行いました。電動昇降台の動力装置はモーターです。2本の鉄柱に螺旋に刻まれた溝のかみ合わせにより上下します。朝倉は故障が起こりにくいことと安全性から螺旋式を採用しました。

## 屋上庭園はもともと朝倉塾の生徒のための菜園でした

朝倉は彫刻の私塾や専門学校を主宰し、後進を育成していました。カリキュラムには必修科目に園芸の授業があり、野菜を育てていました。これは、野菜の成長過程を観察することでモデルを見る目を養うと同時に、野菜を育てる土が、彫刻にも命を吹き込むことを体感させる目的があったようです。土が浅いので、当時は曲がった大根などが収穫されていたそうです。SNSでは、植物の見ごろなどを発信しています。

## 朝倉彫塑館 学芸員 戸張 泰子 (とばり たいこ)

非常勤講師などを経て、2008年より台東区芸術文化財団に勤務する。2009年より朝倉彫塑館に配属され、保存修復工事、リニューアルオープンに携わる。再開館後は朝倉彫塑館および朝倉文夫の魅力発信や館運営に邁進する。専門は近代日本美術史。博士(美術)。京都芸術大学、女子美術大学大学院非常勤講師。



## 朝倉彫塑館は住まいと学校と制作の場が一体となった建物です

当館の設計は朝倉の手によるものです。当館には朝倉の彫刻作品が、メダルから大作までおよそ1300点ありますが、最大の作品はこの建物と言っても良いかもしれません。制作の場としての合理性を保つため鉄筋コンクリート造のアトリエ棟と木造の住居棟を接合させています。相反するものを独自の美学で融合させ調和をとっています。朝倉は、鉄筋コンクリートを世界的な建築材料のひとつとらえています。細部においても異素材のものを組み合わせ、楽しんで設計していたようです。こうした独自の考えを「アサクリック」という独特の言葉を用いて表現しています。



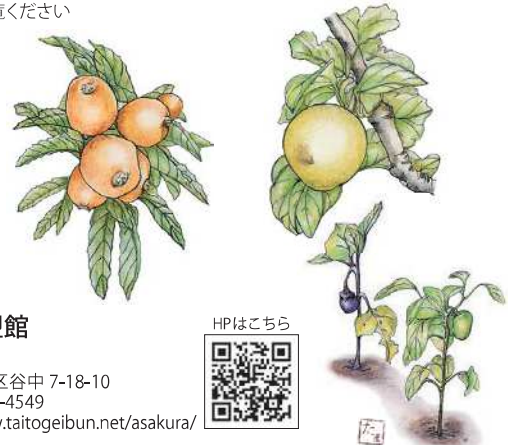
池の海石（浮いているように見える）



萩戸（透き間から入る陽光はやさしい）

朝倉彫塑館は季節ごとに訪れたいくなる場所だ。朝倉文夫の彫刻をはじめ彼の繊細な感性、こだわりや思いやりまで深く味わうことができる。没後なお彫刻界を盛り上げた朝倉文夫賞。その第1回受賞に輝いた戸谷さんの作品《連山》は、どこにでもあるありふれた連山を連想してほしいという。山に立ち、地面の厚みを感じ、チェーンソーで内奥を目指した戸谷さんの彫刻にあらためて思いを巡らせた。

\*《連山》の写真は当館資料閲覧室所蔵の図録「戸谷成雄 彫刻」（2022年11月刊）P.55をご覧ください



## 朝倉彫塑館

〒110-0001  
東京都台東区谷中 7-18-10  
TEL 03-3821-4549  
<https://www.taitogeibun.net/asakura/>

HPはこちら



# おでかけ あーとすぽっと 高坂彫刻プロムナードから三郷工房へ Art Spot

## —高田博厚と沖村正康・三郷工房へつながる道—



高坂駅



埼玉県東松山市の東武東上線 高坂駅西口から約1キロにわたり、32体にも及ぶブロンズの彫刻群が設置されている。この全てがひとりの彫刻家による作品となっていることには驚かされる。この彫刻たちを制作したのは、彫刻家 高田博厚。ここでは、2018年に当館が購入した「アニエールの河岸」の作者ポール・シニャックのブロンズ像がある。

夏の始まりにこの高坂駅に降り立った。1キロに渡る彫刻群は圧巻だ。歩けど、歩けど、彫刻群だ。凄い！ その一つ一つの台座の側面に高田博厚の言葉が残されている。そして、私たちが一番驚いたのは、その野外彫刻の状態の良さだ。屋外の、しかも道路沿いに設置されているにも関わらず、ブロンズの色が斑なく光っている。その謎が知りたくて、彫刻のメンテナンスを行っている「三郷工房」を訪れた。

三郷工房は、彫刻家 沖村正康が東京藝術大学大学院で高田博厚の「彫刻論」に感銘を受け、鑄造技術をマスターした後、1973年埼玉県三郷市に創業した。現在の三郷工房を継承しているご子息の沖村康治さん、厚さんご兄弟に鑄造、メンテナンスについてのお話を伺った。



沖村さんご兄弟



三郷工房 HP



ポール・シニャック



新渡戸稲造



Q. 三郷工房でメンテナンスを行うようになったきっかけを教えてください。

三郷工房では鑄造の受注制作をしていますが、父の師である高田先生の彫刻をよく知っているのでメンテナンスを始めました。

Q. メンテナンスとは、どのような作業になりますか。

まず、ブラシで汚れを落とし、洗浄した後、乾いた布でよく拭きます。次に顔料を塗り込んで色の調整をします。最後にワックスをさらに塗り込んで仕上げます。補修する時の色の調整、色合わせが一番難しいところです。

Q. メンテナンスはどれくらいの周期で行うのですか。

春と秋の年2回です。花の開花に合わせた5月と、毎年開催されている「日本スリーデーマーチ」に合わせて、観光に人が訪れる時期にメンテナンスしています。期間は1週間程かかります。

高田博厚の著書



Q. メンテナンスの重要性を教えてください。

公共の場に設置されている彫刻はほとんど手を掛けられずに放っておかれるこ

とが多いです。「彫刻はきれいにするものなんだ」という気持ちになってもらえたら嬉しいです。車の排気ガスも雨も彫刻にダメージを与える元になります。乾いた布で拭くだけでも変色や腐食を抑えることが出来ます。また、作業している時に街の皆さんが「きれいになったね」と声をかけてくださることが、とてもうれしいです。

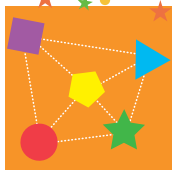
Q. 康治さんはフランス留学をされ、彫刻を鑄造する工房を見て回られた経験があるそうですね。日本との違いや高田さんの彫刻について、お話を聞かせてください。ヨーロッパ各地の彫刻には鑄造した工房の名前のサインがあります。鑄造工房と作家との間には、日本の浮世絵の彫師、摺師のような深い信頼関係が築かれているんです。また現在、大きな銅像よりも小さな作品の設置が増え、長く親しまれてきた公共彫刻でさえも取り壊される状況になっています。日頃からきちんとメンテナンスをして、美しい状態を保てたら、そのような状況にはならないのではないかと思います。高田博厚氏の彫刻はモデルその人なりの特徴を活かしてデフォルメして制作されています。似ているか、似ていないかではなく、人の表情は人が感じるもの。そういう意味で、32体の作品はその人となり表現されていると感じます。

新渡戸稲造の彫刻に添えられた高田博厚の言葉を以下に紹介したい。  
=私の人物像は「似ていない」とよく言われる。ある一時の面しか見ていない者はそう思う。当然だろう。本当の肖像彫刻というものは(私が考えているところでは)「人間」の容貌にそれが経てきた「時間」の層、その厚みが出なかつたら意味を失うだろう。=

\*高田博厚(1900-1987) 彫刻家、随筆家。31歳でフランスに渡り長く滞在。ロダン、マイヨールの影響を受けるとともにロマン・ロランやルオーと交流し、創作活動を続ける。東京藝術大学講師などを務める。  
\*沖村正康(1940-2012) 彫刻家、鑄造家。東京藝術大学大学院において高田博厚の講義を受けたことがきっかけで、卒業と同時に高田博厚のアトリエを引き継ぎ、ロストワックス法による鑄造を独学でマスターし、三郷工房を創立。



高坂彫刻プロムナード HP



このロゴマークは、作品展のコンセプト「つながる」をイメージして作成しました。

## アートでつながる作品展 第1回 ファムスフェスティバル 2024

2024 1/23 火 → 28 日

交流会 1/28(日) 13:00~16:00

埼玉県立近代美術館地下 一般展示室 4

会員の作品展 だよ!



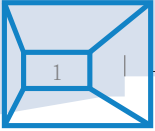
アートは、人と人をつなぐ力を持っています。会員の皆様が創作したアートを展示し、アートを介して人々が語りあい、交流する空間を創り出したい、そんな想いでこのアートイベントを企画しました。

美術を愛する人々、まだ美術の世界に足を踏み入れていない人々が集い、作品を見るだけでなく、作品制作に関わるなど、わくわくする楽しい時間を過ごすことができれば、そこが「フェスティバル」の空間になります。

ぜひ会場に足を運び、あなたも楽しい時間を共有しませんか?

★ワークショップ「みんなでつくろう!」: 用意した色紙などの素材を使い、参加者みんなで一つの作品を創ります。

★交流会: 作者、鑑賞者が作品について自由に語り合い、交流できる場を設けます。



※掲載はファミス会員であることが条件で、掲載料は無料です。



\*日程・内容は変更される場合があります。最新の情報は各主催者へお問い合わせください。

### 第49回埼玉書道三十人展

2024年3月5日(火)~3月10日(日)  
一般展示室 1

日本書壇の第一線で活躍する県内在住の作家の中から、一流一派に備することなく厳選された30人の出品者による最高水準の書道展。伝統文化としての書道藝術。その現在の最先端の表現を披露する。入場料は無料である。



柳澤朱筈「寒山詩句」

### 鈴木千賀子の世界展

2024年3月12日(火)~3月17日(日)  
一般展示室 4

40周年記念展。祈りの造形と愛しき動物たちをテーマに、木彫、陶彫、創作人形で表現。「立体で見る鳥獣戯画」を中心に展示。現在までの作品の歩みを見て頂きたい、約100点展示。



鳥獣戯画より「相撲(すもう)」

### ヨシズミトシオ個展 第70回ありあるクリエイションズ 藝術企画

2024年4月16日(火)~4月28日(日)  
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画、表現の可能性の展示。海外で開催されました国際トリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。御高覧戴きましたら幸いです。



前回の会場風景

### 第47回in埼玉・女流工芸展(全国公募)

2024年4月25日(木)~4月28日(日)  
一般展示室 1

夢を追いつづけ…より高く…より美しく…より深く…染・織・陶・七宝・硝子・金工・革・藤・木彫・刺繍・人形・押花など、日々の生活を豊かに楽しむコーディネート作品など、女流工芸作家による創造性豊かな作品展示。



前回の会場風景

### 第27回埼玉二科展

2024年4月30日(火)~5月5日(日)  
一般展示室 1,2,3,4

二科埼玉支部所属作家の作品発表の場であり、同時に支部主催の公募展に応募された皆さんの作品発表です。絵画・彫刻・デザイン作品、約200点を展示する予定です。多くの皆さんの応募を歓迎します。



前回の会場風景


## ここが見どころ! 表紙解説: 藤原吉志子の人と作品 Spot Light

**表紙作品**  
《はるかな青い空》  
1987(昭和62)年  
ブロンズ  
38.5×26.7×16.0cm

**藤原 吉志子** (ふじわら よしこ)  
1942(昭和17)年—2006(平成18)年

東京に生まれる。1969年東京藝術大学大学院鍍金専攻修了。79年から83年までアメリカに滞在。86年第1回ロンドン大賞展でエミリオ・グレコ特別優秀賞を受賞。動植物や人間などをモチーフに物語性のあるブロンズ彫刻を手がけ、ときに社会風刺的な作品も発表した。また仙台市博物館前に設置された《通一昨日・今日・明日》(1995年)など、全国各地のパブリックアートの制作にも携わった。

四角柱の下から上へと階段が伸び、登り切った先には小さな家がある。四角柱の上には植物が生え、犬が立っていて、犬は階段のほうを向いている。藤原吉志子はこの作品のように、身近なモチーフを用いながら、その自在な組み合わせによって、見る者に豊かな物語を想起させる彫刻を数多く手がけた。タイトルからすると、作者はてっぺんの家のさらにその先に、青空の広がる光景を見ていたのだろうか。




### 賛助会員名簿/私たちは美術館を応援しています

- (2023年10月1日現在)
- 特別賛助会員**
    - (株)アライ設計
    - (株)ガロ
    - 税理士法人さかえ会計
    - (株)テレビ埼玉
    - (有)細井技研
    - (株)万世
    - (株)明成ベペロネ
    - 浦和興産(株)
    - (株)埼玉画廊
    - (株)樹住建
    - DAY HAPPY
    - 松田産業(株)
    - 武蔵野環境整備(株)
    - メガソーラー機構
    - (株)エフエムナックファイブ
    - (株)埼玉りそな銀行
    - (有)上州屋リビング
    - 日本畜産興業(株)
    - 丸沼芸術の森
    - (株)武蔵野銀行
  - 法人賛助会員**
    - 海游舎
    - (株)コア
    - 埼玉二紀会
    - (一社)新構造社 埼玉支部
    - 見沼100年構想の会
    - (有)ギャラリー藤井
    - 埼玉書道三十人展実行委員会
    - CAF.N協会
    - (有)とらや
    - 武蔵野美術大学卒業生会
    - 群炎美術家協会 埼玉支部
    - 埼玉二科会
    - 社会芸術/ユニット・ウルス
    - (有)中村元
    - 凜の会
  - 個人賛助会員**
    - 一瀬 謙輔
    - 清水 武司
    - 根岸 和美
    - 岡田 謙子
    - 鈴木 千賀子
    - 野口 真理
    - 岡部 美代子
    - 高崎 考一
    - 廣澤 公太郎
    - 加藤 正宏
    - 滝沢 布沙
    - 丸山 晃
    - 小松 弥生
    - 滝沢 弥生
    - 横尾 嘉子
    - 小森 光子
    - 都築 松子


## fam.s museum shop 便り

ショップで大人気の<花咲く!ピクルス> 色とりどりの県産具材が詰まった小瓶は、つい手に取りたくなる可愛らしさです。優しい味わいにリピーターになる方も多いこのピクルスに、当館オリジナルの玉乗りサイマークバージョンができました。ピクルスを手掛けるマルシェドミユキの棚澤さんには、何度も相談に乗って頂きました。サイズなるべく大きく見せたい、でも瓶の高さやサイマークにする人参の直径には限界がある…。ようやく決まって京都の鍛冶屋さんに抜き型を依頼をしても、細かソーパーツの再現が難しい…など壁はありましたが、納得いくものが完成しました。ご来館の記念や、日持ちしますのでちよつとしたお土産に。どうぞかわいいサイズをお連れください。(T.Y.)




## fam.s (ファミス) とは About fam.s

埼玉県立近代美術館フレンド (friends of art museum, saitama) の愛称です。fam.s会員は、会員期間内の企画展・常設展を何度でも観覧できます。会員限定のギャラリートークやイベントのお知らせ、ショップなどの優待もあります。入会は随時受け付けています。詳しくはフレンド事務局までお問い合わせください。

HPはこちらから▶ 

〈編集後記〉  
朝倉彫塑館では天井高いアトリエでのインタビューでした。朝倉文夫氏の設計した空間でお話を伺えるという貴重な時間を頂きました。日本家屋の中庭の池がヒンヤリとして気持ちよくても眺めていられました。次は谷中散策と合わせて行こうと思います。三郷工房の鋳造工房の鋳造現場も酷暑のなか大変でしたが、三郷工房さんの制作への思いも胸が熱くなりました。工夫に工夫を重ねられた工房は小さな要塞のようでした。(A.K.)

ファミス通信 第50号 2023年11月発行  
広報委員◆秋本圭美/安藤恭子/野口恵子/森 幹枝  
紙面デザイン◆木村昭司  
発行者◆埼玉県立近代美術館フレンド事務局  
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1 埼玉県立近代美術館内  
tel 048(824)0111 fax 048(824)0119



ファミスのキャラクター「ファミちゃん」  
©fam.s